



会長 三嶋 真澄

いつも教育後援会にご理解、ご協力下さいまして、ありがとうございます。四代目会長を務めさせて頂く事になりました。宜しくお願い致します。

1月8日、本校創立125周年記念式典に出席させて頂きました。

大即校長先生がスクリーンを使いながら学校の説明をして下さり、私の子供は大学生ですが、こんなに素晴らしい高校生活を送っていたのかと、感動を新たにしました。

その式典に、この教育後援会を立ち上げて下さった初代松山会長と、2代目小林会長も来て下さったので、挨拶の後、立ち上げ当初のお話を聞く事が出来ました。

平成12年、突然文部科学省からの通達で、今までPTA会費で運用出来ていた生徒の為の支出が不可能となり、その補填をする組織を早急に作らなければならなくなり、どのように資金を集めるか、会の名前はどうか等、ゼロからの出発だったそうです。

今ではお陰様で多くの皆様のご理解を頂き、生徒の学習・生徒会・クラブ活動・学校運営の補助、生徒用備品等の購入など、全ての生徒が直接関わる教育活動への支援、及び、会員の皆様へ、バザー、庭園見学、お料理教室などを開催させて頂いています。

初代会長は、「教育後援会は、全生徒の為に使う資金を集め、ボランティアで運営する組織なので、全ての保護者のご協力を頂けると良いわね。」と、今も気に掛けて下さっていました。

気持ち良く役員を引き受けて下さった方々も含めまして、会員の皆様と共に、教育後援会に携われて良かったと思える会になったらと思っております。

さて、若者の就職難が続いています。100年に一度という不況の中では、正社員に成るのは難しいのかもしれない。

最近就職が決まったという女子大生と話しをする機会がありました。彼女は100社以上エントリーし、20社の面接を受け、やっと就職する会社が決まったと言っていました。

面接で入社が決まらない初めの頃は、自分のここがいけなかったのか、それともこっちかと、いろいろ対策も考えたそうです。

しかし、面接も10社を過ぎるようになると、社会から自分という人間を全否定されているようで、もう何が原因か考える事すら出来なくなりながらも、諦めずに受け続けた20社目で、ようやく採用が決まった時には、この会社で何がしたいとか、交通面はどうか等、検討する余裕も無くなっていて、即、入社を決めたと言っていました。

彼女の最初の印象は、内気で控え目でした。が、話しを聞くうちに、芯の強さを感じました。きっと、何度も何度もチャレンジする中で、強く成って行ったのだらうと思いました。

多くの若者が今、彼女と同じ様に頑張って頑張って自分を磨いています。そこまで努力した若者が入社して行くと・・・。
私は思いました。日本の未来は明るい！と。

東工大材料系研究室に進学して

自己紹介

平成18年3月に電子科(現情報システム科)を卒業しました、小池美矢子です。

高校から東京工業大学工学部第二類に進学しました。

現在は東京工業大学理工学専攻科材料工学専攻の修士1年(4月から修士2年)で、金属の高温物性を研究する研究室に所属しています。

今は、修士2年になるところですので、就職のことを考えつつも、次の学会発表に向けて頭を悩ませているところです。

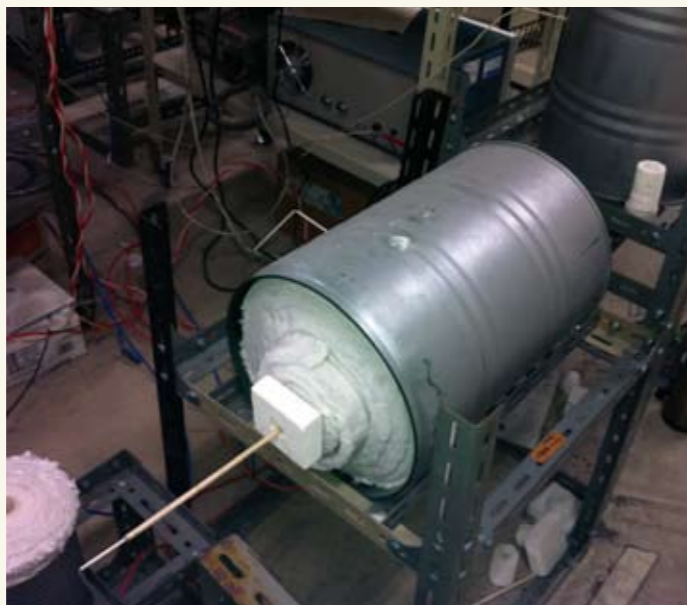
文章を書くのは得意ではないのですが、私の研究内容と研究室の様子を軽く紹介したいと思います。

研究の紹介

私の研究は、 Sb_2Te_3 の電気抵抗率の温度依存性を高精度に測定するという内容です。

この研究は、 $Ge_2Sb_2Te_5$ という合金の電気抵抗率温度依存性を測定するための基礎研究であり、これから Sb_2Te_3 以外の組成の測定にも取り組む予定です。

$Ge_2Sb_2Te_5$ と聞くとなじみのない合金と思われるかもしれませんが、実は DVD-RWの記録部分に使用されている合金です。 $Ge_2Sb_2Te_5$ を代表とする合金は、結晶とアモルファス(結晶のような原子配列の周期性がない状態の個体)の間に反射率・電気抵抗率の差がある材料で、相変化記



物性の測定のためには、測定したい物体に何らかの外部因子を加える必要があります。電気抵抗率の測定でいえば、電流供給や測定用の端子、供給電流といったものです。こういった外部因子が、測定する物性に影響しないよう配慮する必要

憶材料と呼ばれています。

DVD-RWの読み書きは、レーザーによる加熱をコントロールすることで、この $Ge_2Sb_2Te_5$ を結晶とアモルファスとに変化させ、反射率の違いからそれぞれを1と0としています。

近年、この合金の抵抗率の差を利用した新しい不揮発性メモリの開発がおこなわれており、その開発のために電気抵抗率の温度依存性を測定する基礎研究が必要となっています。

研究室の様子紹介

私の所属している研究室は、特に高温物性の研究を行っています。ほとんどの人がそれぞれの研究に合わせた電気炉を自作して使用していますので、実験室は電気炉がたくさんあります。

また、化学分析室もあります。ここで組成分析のための溶液を作ったり、滴定(中和反応を利用して、溶液中のイオン濃度を決定する分析方法)をしたりする人もいます。

示差走査熱量測定装置(相変態の際の吸熱・発熱を測定することで、相変態温度を特定できる装置)や光学測定装置(物体の反射率・透過率を測定する装置)といった分析機器もあります。



があるという部分が、物性測定では困難な点です。

また、高温においてはすべての反応速度が速いので、室温では反応しないもの、反応したとしても反応速度が遅くて影響しないものも、高温においては影響してくる可能性があります。前述の測定端子が測定対象の物体と反応する可能性があるのです。

こういった点をクリアしながら研究を進めていきます。

研究室には、教授、准教授、助教の他に博士1名、修士8名、学部四年生5名が所属しています。

あまり堅苦しくない雰囲気です、まったりと研究活動しています。

大体年一回から二回学会で発表する他、セミナーなどのイベントで様々な場所へ行ったりもします。

金属に関する研究は歴史があり、私の研究も、ロシアがソビエトと言っていた時代の論文を引用したりするくらいです。

金属の花形である鉄鋼業界は、歴史のある分野です。鉄については一般的にはもう研究する部分



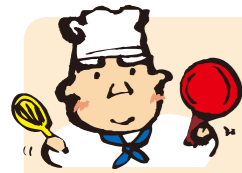
のないくらい研究しつくされてきた分野で、発展性がないと思われがちですが、そんなことはありません。新しい自動車鋼板が開発されたり、熱処理の方法が変化したりと、今でも新しい研究が行われています。

ひとこと感謝

在学中は、高校の先生方に大変お世話になりました。

また、教育後援会の皆さまにも、今回このような機会を頂きまして、本当にありがとうございました。

これから修士二年ともなれば、研究成果の大詰めでもあり、就職に関しても本腰を入れて考え始める時期でもあります。そんな時期にこういった原稿を書かせて頂くことになりまして、自分の現状を見つめなおすチャンスとなりました。



第7回 シェフ大塚お料理教室

1月29日(土) お昼に開催されたお料理教室も今年で7年目を迎えました。寒い時期にもかかわらず、50名近くのご参加をいただき、楽しい会となりました。さて今年は、「受験期の能力アップと生活対処法」をテーマにメニューを考えていただきました。



《参加者からの声》

*こんなに栄養たっぷりのメニューを考えていただいて、受験期に是非活用したいです。
*ちょっとした技をシェフから教えていただき、毎日の料理に役立っています。
*どのお料理も意外にシンプルな調味料での味付けなのに、素材の良さ、レシピの良さで、いつも家で作るものより、ずっと美味で参考になりました。その他多数の貴重なご意見をいただきました。今後の参考にさせていただきます。ありがとうございました。
(1-E 高田)

1. 四万十川の鰻の白焼きとニンニクの茎の炒めもの
(目の疲れを解消する)
2. 鶏肉のトマトシチュー
3. 小海老とブロッコリーとカリフラワーのサラダ
和風のマヨネーズソースで
4. ほうれん草とベーコンのソテー
ご飯に12種雑穀米(有機無農薬)
デザートにプレーンヨーグルトに
岩手産の山のきぶどうシロップ
(ポリフェノールがブルーベリーより多く含まれて、目の栄養になります。)

※レシピはHPに掲載されています。http://tokodaihuzoku-koenkai.com

これだけのお料理を限られた時間でうまくできるかとても心配でしたが、思いの外スムーズに楽しく調理ができました。ゆっくりとおしゃべりをしながら食事ができ、楽しい時間を過ごすことができました。

これも、前もってシェフが適量の食材をそろえてくださり、相性の良いメニューを考えてくださったおかげかと思えます。参加して下さった保護者の皆様もご協力ありがとうございました。



《受験期の能力アップと生活対処方》

受験期が近づいてくると本人はもとより、家族全員がピリピリして、ストレスも最高潮に達します。できるだけ平常心で生活できるようにすることが大切です。お正月が過ぎるとラストスパートの時期、夜型の生活に傾いている人は、早寝早起きを心がけ、朝型になるように徐々に修正していきましょう。家族が必要以上に気を遣うことはマイナス効果。親はゆとりを持つことが大切です。寒い時期ですから外から帰ったら、うがい、手洗いを忘れずにすることが、風邪予防には効果があります。体が温まるようなシチュー、鍋物などで家族揃って食べられるように心がけること。たっぷりの野菜と栄養バランスのとれた食事、ゆったりした雰囲気づくりに心がけることが大切です。

■第7回 シェフ大塚お料理教室の概要

- 日時 2011年1月29日(土)
11:00~14:00 (受付 10:30~11:00)
- 会場 本校1号館3階 家庭科実習室
- メニュー 受験期の能力アップと生活対処法
- 講師 大塚義夫氏
- 持ち物 エプロン、タオル、三角巾、箸、筆記用具
- 参加費 500円(当日受付)

■シェフ大塚(大塚義夫)氏 プロフィール

- 1976年 第1回青年司厨士ヨーロッパ派遣員として欧州各国で修行
- 1978年 フランス プロスペール モンタニエ 受賞(優秀料理人賞)
- 1981年 レストラン東急支店料理長 就任
- 1993年 レストラン東急本店総料理長 就任
- 1997年 総料理長としてプレッセ1号店を立ち上げる
- 2002年 「見た美味しさ、食べた美味しさ、感動する美味しさ」をコンセプトに食のコーディネーターとして活躍、現在に至る
- 2004年 第1回お料理教室講師 エスコフイエ協会日本支部会員



現在、高級フランス料理を日常生活の惣菜へ、3度の美味しさ=「見た美味しさ・食べた美味しさ・感動する美味しさ」をコンセプトに、素材にこだわり安全性を追求した「食=健康=美味しさ」を、テーマにした商品を開発中。

「第3回庭園見学会 報告」

副会長 村田 幸久

3回目を迎えた恒例の庭園見学会は、11月13日に湯島天神～旧岩崎邸庭園というコースで実施しました。当日は絶好の秋日和で午後2時、湯島天神の鳥居前に集合しました。参加者は三島会長をはじめ、上林副会長、小池顧問、橋川総務(湯島天神にて帰参)、仲道・砂岡・今田各先生、後援会の役員さん、保護者の方々など総勢38名となりました。



私はガイド役を務め、参考資料を準備してそれを見ながら説明させていただきました。

以下、その概略をご報告いたします。

湯島天神は天神様、いわゆる「学問の神様」として知られている菅原道真を祀っている。今でこそ名高いのですが、明治時代以前は怨霊や祟りの対象として恐れられていました。当社は湯島神社として平安時代中頃に天之手力雄命(あめのたちからをのみこと)を勧請(かんじょう)したのを創祀とし、室町時代になって郷民たちが道真をこの地に勧請したと伝えています。恐らく、落雷などの被害にあい、そのために祭神に迎え入れて祀ったものと想像されます。そして、江戸時代に入り、家康の寄進などで社殿が建立されましたが、明暦の大火などたびたびの火災により社殿や古記録類が焼失し、現在の社殿は明治18年(1885)に再建されたものといえます。



神社内では菊花祭が催されていたこともあって、出展者や参拝者、受験生などで賑わって混雑していました。集合して最初に神社の歴史的な説明をしてから、見学の時間をとりましたが、3年生のクラス役員さんや参加者の中にはお守りなどを戴いている方々をお見受けしましたので、いよいよ“受験シーズンの到来か”という感想を強く持ちました。



やがて、旧岩崎邸庭園へと向かいました。この岩崎邸は、明治29年(1896)、イギリスの建築家コンドルによって建造された旧三菱財閥3代当主岩崎久彌の邸宅です。この人は岩崎彌太郎の嫡男です。彌太郎は土佐藩の郷土出身で、NHKのドラマでも有名な坂本龍馬と同郷で、三菱財閥の基礎を確立した人物です。

コンドルは明治10年(1877)に「お雇い外国人」の一員として来日し、日本近代建築の父ともいわれ、日比谷の鹿鳴館(ろくめいかん)や神田のニコライ堂などの名建築を設計しています。この旧岩崎邸はコンドルの最高傑作の一つといわれているようです。



それでは建物の見学に移ります。まずは主な見所を交えながらご案内したいと思います。この邸宅は、正面にドーム状四角錐の塔屋(とうや)をいただいた左右対称の建物で、屋根は天然スレートで葺(ふ)き、外壁はクリームイエローのペンキ塗りの下見板(したみいた)を張った木造2階建であるとガイドペーパーでは紹介しています。その正面に立つと、クリームイエローの外壁はややオレンジのような色に変色していましたが、当時としてはかなりモダンな建物であったと思います。内部は洋館と和館とが併造されている造りとなっています。入り口は洋館となっています。

洋館に入りますと薄暗い感じがしましたが、天井からの灯りや透明なステンドグラスのファンライトがやさしく照らしていたためでした。そして、確認はできませんでしたが、床のペランダには旧イギリスミントン社製の高級な象嵌(ぞうがん)タイルが敷かれているのだそうです。その右側に位置する婦人客室(この日定期演奏会が開かれていて満席だった)には日本刺繍を施したシルクの天井とイスラム風装飾などの意匠(いしょう)があって、異国情緒が出ていました。2階に上がるための大階段にはジャコビアン様式(17世紀初頭のイギリスの建築・家具様式で、細かな植物文様などの特徴をもつ)の装飾とゴシック風の造りとなっていて、いかにも頑丈で安定感がありました。



2階に上がり、すぐ東側の婦人客室に入ると北面にイスラム風の装飾のついた大理石の暖炉が目につきました。その壁には隣の南側客室と同様に金唐革紙(きんからかわかみ、復原)が張ってあって、とてもゴージャスなムードが漂っていました。この革紙は江戸時代に長崎の出島を通じてオランダから輸入された金革の製品を、日本では革の使用が難しいので和紙を用いて似せて製作したもので、平賀源内が発明したといわれています。それを復原して鹿鳴館の壁紙として使っていたこともあって名高かったのです。さらに、ペランダに出てみますと、柱頭に巻き貝の飾りを付けたイオニア式の柱と、蔓草模様(つるくさもよう)の手すりが大変印象的でした。



た。古典的のようですが、すごく斬新なもののように感じられたのです。

とにかく素晴らしいなどと感心しながら、1階に下りて接続している和館に入りますと、また様相は一変します。日本の伝統的な書院造を基調とした空間に変わったためです。大広間には明治時代の代表的な日本画家である橋本雅邦(はしもとがほう)が描いたという障壁画(今はおぼろげでぼんやりとしていますが、かすかに富士の雄姿が見て取れます)が残っていました。やはり和室の部屋は心落ち着きますし、当時においては純和風建物として貴重なものだったことはよく理解できました。

建物の見学を終わって庭園に出ますと、庭一面に芝を張り、庭石、灯籠(とうろう)、築山(ちくやま)などが和風庭園としてセットされていましたが、江戸時代以来の石碑や手水鉢(ちょうずばち)、ずっしりとした庭石、モッコクの大木などがそのまま残されてい往時をしのぶことができました。大名庭園(だいまいようていえん)を活かしながら作庭していたわけです。なお、洋館から地下でつながっている撞球場は外から見学しましたが、山小屋風のロッジをモチーフにしているという印象でした。



今回は庭園見学というよりは建物の見学が主体となりましたが、見所も多く見応えがあったと思います。見学終わって全員がそろったのが4時近くとなり、建物を背景に全員で記念撮影をして盛会のうちに終了しました。価値のある一時だったと思います。誠にありがとうございました。



125周年記念式典

平成23年1月8日(土)、大岡山で東京工業大学附属科学技術高校創立125年式典が行われました。本校からは三嶋会長を初め、12名の方が参加いたしました。

記念式典は以下のタイムテーブルで行われました。記念式典では、最初大即校長がスライドを使い、古い写真を表示しながら学校の沿革等を説明されました。その後、来賓祝辞として東京工業大学学長の伊賀先生、芝浦工業会(昼の生徒の同窓会)会長、

蔵前修工会(夜の専攻科の同窓会)会長(代理)の挨拶がありました。

○記念式典 11:00~12:00

○祝賀会 12:00~1400

その後、反対側の会場で祝賀会に移り、少し、飲み物もとりながら、昔の先生のお話などを聞きながら会を開きました。(記 仲道)

東京工業大学附属科学技術高等学校
創立125周年記念
式典・祝賀会会場



弟燕バザー



教育後援会の行事として、文化祭(弟燕祭)に参加してバザーを行いました。今までこのバザーの売り上げで、別表のような物品を学校に寄付させていただいています。当日は1日目から出足好調で、無事、2日間で提供された品物を完売することができました。バザーに品物を提供されてくださった皆様、当日購入されてくださった皆様、誠にありがとうございます。本年のバザーの売り上げは2日間で109,022円となりました。前年度の金額と合わせ、学校と相談の上、生徒の安全や教育活動に

役立つものを寄付したいと思えます。どうもありがとうございました。また、来年度の協力もよろしく願いいたします。(記 仲道)



教育後援会寄贈品一覧

教育後援会、会費、賛助会費等より

H20 音楽室 グランドピアノ

上記会費+文化祭バザーの収益金

H18 4号館・体育館前 除細動機(AED)

H19 本館2階212教室 スクリーン設置

H20 光学式マークシートリーダー(OMR)

教育後援会だより 第12号 平成23年3月10日発行

東工大附属高校教育後援会 発行人 三嶋 真澄

オフィシャル・ホームページ: <http://tokodaihuzoku-koenkai.com>

印刷所 株)あおむし Tel.045-670-7038